

## 大学院 FD 活動報告

### 1. はじめに

大学院 FD 委員会では、教員の研究力および教育力の向上を目的とし、2025 年度において前年度と同様に下記 3 点について取り組んだ。

- 1) 外部講師による講演会の開催
- 2) 大学院担当教員の研究紹介による研修会
- 3) 大学院生へのアンケート調査の実施

以下に、実施状況の概要を報告する。

### 2. 実施状況報告

#### 1) 外部講師による講演会の開催

日時：2026 年 2 月 10 日（火）14:00～15:30

会場：4 号館 2 階 421 講義室

講師：京都府立医科大学大学院医学研究科 教授

内藤 裕二 先生

演題：「折れないところとからだを創る食べ物の科学」

対象：本学大学院及び学部教員、大学院生（修士課程・博士後期課程）

司会進行：辻 典子 氏

参加者数：本学大学院担当教員、大学院生および本学教職員 22 名

京丹後長寿コホート研究の成果を分かりやすく解説していただいた。京丹後地域は高齢化率が 35%を超えているものの、100 歳以上の高齢者の割合は全国の 3 倍程度と高い。内藤先生が所属されている京都府立医科大学では、この地域を対象とした多目的コホート研究を 2017 年より展開している。食については、BDHQ（簡易型自記式食事歴法質問票）を用いた食事調査の結果から、この地域では圧倒的に魚の摂取が多いことや酪酸酸性菌が分解して酪酸を生成する水溶性食物繊維などの摂取やフレイルの予防に役立つなど腸内細菌との関連など知見が紹介された。講師の内藤先生は医師の立場から、一人で食事をとるより誰かと一緒に食事をとる「食事を介したコミュニケーション」が大切なことなども強調された。このコホート研究を中心に、世界の長寿研究についてもご紹介くださり、多方面にわたる長寿研究の重要性を学ぶことができた。

#### 2) 大学院担当教員の研究紹介による研修会

大学院担当教員に今年度から加わった教員 1 名の研究紹介による研修会を下記のとおり実施した。

第 1 回大学院 FD 研修会 学内教員による研究紹介

趣旨：新たに大学院教員に加わった教員が自己紹介を兼ね、研究紹介を行った。

## 大学院 FD 活動報告

日時：2025 年 12 月 6 日（土） 11：40～12：00

会場：8202 講義室

司会：村田 浩子

発表者：鴨下 澄子氏

内容：「地域在住高齢者の身体機能，栄養素等摂取量に関する研究」

鴨下先生のご自身の子育てを通し多独自の視点からの研究への取り組みについて、ご紹介いただいた。

### 3) 大学院生へのアンケート調査と情報交換会の実施

大学院生の声聴くアンケート調査を前年度と同様に Microsoft Forms を使用し、下記のとおり実施した。以前実施していた教員と大学院生との情報交換会は、新型コロナウイルス感染症などここ数年の感染症の流行以降は中止となっている。また、大学院生には留学生による自国での調査研究を実施している学生もおり、大学院生のスケジュールから交流会の実施が難しい側面もある。

#### ○2025 年度大学院生の声聴くアンケート調査と結果の概要

<実施期間と実施方法>

2025 年 2 月下旬～3 月中旬

今年度も記載内容の匿名化を徹底するために、Forms を利用した Web アンケートで実施した。

<設問と集計結果は下記の通り>

#### ○回収率

9 名中 5 名，55.5%（修正課程 42.9%，博士後期課程回答率 100.0%）

#### 全学生に共通する質問

- 1 カリキュラムや研究指導で大学院生への配慮は十分ですか。  
⇒「はい」5 名（56%），「いいえ」0 名，「どちらでもない」0 名
- 2 1 について要望があると回答した方はその内容をお書きください。⇒記述なし
- 3 研究指導体制について要望はありますか。⇒「ない」4 名，「ある」1 名
- 4 3 について要望があると回答した方はその内容をお書きください。⇒記述なし
- 5 大学で利用可能な文献データベースや図書について要望はありますか。  
⇒「ない」3 名，「ある」2 名
- 6 5 について要望があると回答した方はその内容をお書きください。  
⇒Nature や Cell、Science といったトップジャーナルも契約してほしい。
- 7 大学院講義室，院生室，その他大学院関連施設・研究設備についての要望はありますか。  
⇒「ある」1 名，「ない」4 名
- 8 7 について要望があると回答した方はその内容をお書きください。  
⇒院生室でもコピー機能のあるプリンターがあればうれしい。

## 大学院 FD 活動報告

- 9 大学院生生活の経済的基盤について大学の配慮は十分ですか。  
⇒「はい」3名, 「いいえ」2名
- 10 9について、意見や要望があればお書きください。  
⇒研究費とは別枠で大学独自の研究助成金制度があると嬉しいです。博士課程のRAやJSTなどの経済的支援を拡大してほしい。学生支援課からの博士向きの奨学金情報なども定期的にメールしていただきたい。
- 11 授業時間割や中間報告等の年間スケジュールについて、要望はありますか。  
⇒「ない」4名, 「ある」1名
- 12 11について意見や要望があればお書きください。  
⇒中間報告の曜日ですが、土曜より平日の方が助かる。
- 13 大学院修了後の進路、就職について、大学のサポートは十分ですか。  
⇒「はい」3名, 「いいえ」2名
- 14 13について意見や要望があればお書きください。  
⇒経済的支援が全くない。奨学金情報や博士課程が出願できる研究公募等を配信してほしい。
- 15 修了要件である学会発表について、資金面で大学のサポートは十分ですか。  
⇒「はい」0名, 「いいえ」2名, 「どちらでもない」3名
- 16 15について意見や要望があればお書きください。  
⇒学会の旅費と参加費の補助が欲しい。大学院生費一人当たりの研究費の増額をお願いしたい。また、院生費以外に、学会の交通費や宿泊費の支援をお願いしたい。
- 17 以上の質問以外でご意見や要望があればお書きください。  
⇒博士課程への経済的支援, 学会や論文投稿などの支援拡充をよろしく願います。

### 修士課程の学生に対する質問 該当者判別不可

- 17 本学の大学院博士後期課程に進学したいと思いますか。  
⇒「はい」0名, 「いいえ」1名, 「どちらでもない」2名

### <対応、ならびに今後に向けての課題>

アンケート終了後、アンケートの回答および修士課程と博士後期課程の内容をまとめた内容を大学院担当教員全員に研究科委員会の報告で周知し、フォルダ内にも格納し閲覧できる形にした。各担当委員の教員で、要望があった内容への対応を検討する。

また、昨年度と同様に実施方法を Forms としたが、博士後期課程の回答率は100%を継続できた。修士課程については昨年と同程度の回答率であった。大学院は留学生、および社会人が占める割合が高い。経済的援助、特に修士課程での修了要件に含まれている学会発表のための参加費や交通費の補助が不十分であるとの要望が今年度についても寄せられた。今後、指導教員と協力して丁寧なヒアリング等の機会を設けることが必要である。

## 大学院 FD 活動報告

### 3.まとめ

大学院の FD 活動は昨年とほぼ同様の内容であったが、今年度は学内講師による研修会として実施した内容は、新任教員の研究紹介が1名のみであったことから1回のみであった。また、学外講師による講習会は、毎年、大学院の3つの構成分野である食科学分野、栄養科学分野、健康科学分野が持ち回りで講師を紹介して実施しているが、今年度の食科学分野の担当からの紹介で内藤先生にお越しいただくことができた。講演内容は、すべての分野の研究のヒントにもなる多面的な大規模コホート研究の結果に関するものであり、健康寿命の延伸のための食品の開発や運動と栄養、休養に関する知識を蓄積することができたと考えられた。

最後に大学院生へのアンケート結果から、前年度と同様に研究の成果発表に関して資金面のサポートを要望する声が上がっていた。海外のトップジャーナルの文献利用については、ここ数年大学院生からのリクエストが挙がっているため図書館とも連携をとりながら合理的な方法を検討したい。また、大学院生は修了要件に研究結果の学会発表や論文発表が含まれているため、大学全体では予算の削減が迫られているが、今後は、大学院においては学生の自己負担も多くなりがちな面を考慮し、大学からの経済面での十分なサポートをお願いしたい。

以上